

伊那市社協の「なつチャレ」

伊那市社会福祉協議会では、夏休みの福祉・ボランティアの楽しいチャレンジ体験として「なつチャレ」を開催しています。



●施設の夏祭りに行こう!



●スーパーで車いす体験!

多彩な体験プログラム

普段の暮らしの中にある
いろいろな福祉を見つけよう!



●募金箱を作ろう!



●要約筆記体験

※要約筆記とは、聴覚障害のある方に対して、言葉を文字に変えて届ける情報保障です。



●手話・点字体験!

「なつチャレ」とは?

「サマチャレ(サマーチャレンジボランティア)」は、普段身近にありながらも、なかなか身近なこととして考えることのない「福祉」について、小学生の夏休みの自由研究の課題や、中高大学生の将来の選択肢を広げる機会として楽しく体験的に学びを得られる活動です。

職業についての理解を深めるだけでなく、そこにはどんな人がいるのかを知ること、自分たちの普段暮らす地域を見つめなおす機会にもなります。

全国的に「サマチャレ」として知られているこの活動を、伊那市社会福祉協議会ではより親しみやすく「なつチャレ」と名付けました。伊那市の「なつチャレ」は、小学5年生から大学生までを対象に夏休みの期間を活かした様々な福祉体験ができるプログラムです。

協力：社会福祉法人上伊那福祉協会、社会福祉法人伊那市社会福祉協議会

様々なことへ興味を広げる機会

「なつチャレ」を主催した伊那市社会福祉協議会の中山咲子さんは「普段の暮らしの中にあるいろいろな福祉を見つけたいなと思っています。とても身近なものと感じてほしいです。『なつチャレ』をとおして、福祉だけに限らず、もっと知りたい・やってみたい・行ってみたい・見てみたいという気持ちが膨らみ、様々なことへの興味が変わってくると嬉しいですね」と「なつチャレ」に参加した子どもたちへの願いを話します。

「『なつチャレ』で大切にしているのが、飽きない仕組みづくりです。子どもたちの発見につながるような好奇心を掻き立てるプログラムをいろいろな団体と連携をして組み立てていくことで、楽しさ+発見ができるような企画ができると思うのでこれからも大切にしていきたいですね」

子どもたちと一緒に先生方も気軽にご参加ください

自分たちが暮らす家や地域に、些細な階段や小さな段差、高い場所にある取りづらい物や押しづらいボタンなど、ちょっとした困りごとはありませんか。ほんのちょっと困ることなら、乗り越えられるかもしれません。しかし、その「ほんのちょっと」を、乗り越えられない壁のように感じている人も多くいます。

そんな自分の暮らす地域を見つめなおし、新しい発見や気づきにつながる楽しいプログラムが「サマチャレ」で体験できます。夏休み前には、お近くの社協や公民館などからお知らせがありますので、大勢の子どもたちの参加をおすすめします。



福祉の心
ふっころ
長野県社会福祉協議会
公式キャラクター

令和元年10月発行 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/

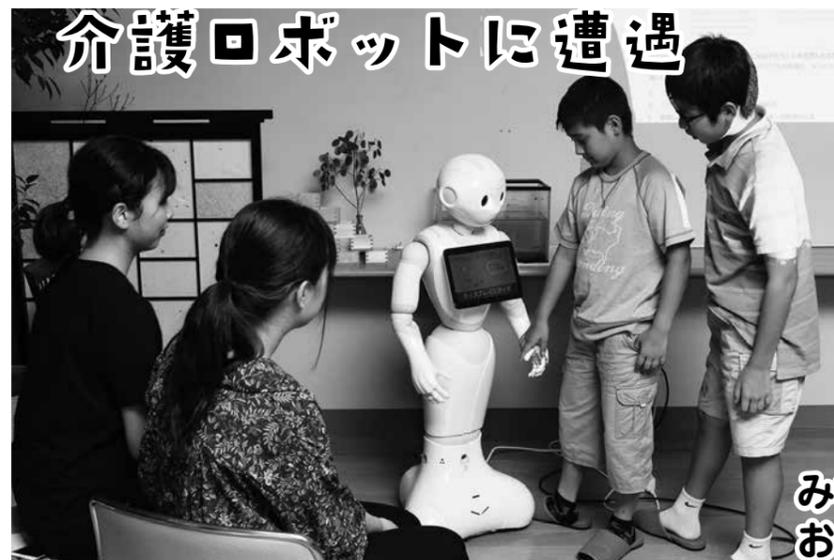
小学生ボランティア新聞 ふろく

介護ロボット参上!

*本紙の特集事例をよりくわしく解説! あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.152
今号の特集から

伊那市社協の「なつチャレ」で 介護ロボットに遭遇



特別養護老人ホーム
みすず四恩の家を訪問



みすず四恩の家の
お仕事を知ってみよう!

事例の概要

福祉についての理解を深めるプログラム

8月7日、上伊那福祉協会特別養護老人ホームみすず四恩の家で、伊那市社会福祉協議会主催の「なつチャレ」が行われ、市内の子どもや専門学校生15名が参加しました。この日のプログラムは、午前中にみすず四恩の家についての施設紹介と職員の仕事内容の説明、午後からは介護ロボット「ベッパー」との交流体験でした。

みすず四恩の家は、入居者が「その人らしい生活」を送るために、一人ひとりに合わせた計画と空間づくりをする「ユニットケア」を行う施設です。

午前中、施設紹介のビデオを見た後、機能訓練指導員として働く小松一輝さんから、リハビリの仕事についての講義がありました。機能訓練指導員とは、けがや病気、高齢などで低下した入居者の体の機能を、本人や介護スタッフと協力をし、一緒にプログラムを考え、一人ひとりに合った方法で機能の回復や現状維持、機能減退防



止の訓練をする仕事です。指導員としての仕事にどんな意味があるのか、どんな人を対象にしているのか、小松さんは子どもたちにもわかるように丁寧に説明をしていました。

次に小松さんは、子どもたちが体を動かして、遊び感覚で楽しめるプログラムとして、高齢者の転倒予防に行っている新聞紙を使った足の指の体操を行いました。この体操は、近年子どもに増加している浮き指にも改善効果があります。浮き指とは、足の指が下に接地せず浮いている状態のことを指し、この状態が続くと高齢に伴う転倒などのリスクが増加すると言われています。小松さんは新聞紙を丸めたり広げたり、球にしてつまんだり放したりといった運動を子どもたちに15分ほど教えました。すると実際に浮き指だった子の指が床に付き、会場からも驚きの声が上がりました。「すぐに効果が出ない運動では意味がないので



す」と即効性と継続が日常生活機能の訓練には欠かせない、ということをお松さんは教えてくれました。

驚きや発見がいっぱい!

体験した子どもからは「指がついたのがすごかった!」「普段なかなか知らないリハビリのことや、お仕事について知ることができて、入居している人の生活を支えられるってすごいことだなんて思いました」と発見につながる感想や驚きがあげられました。

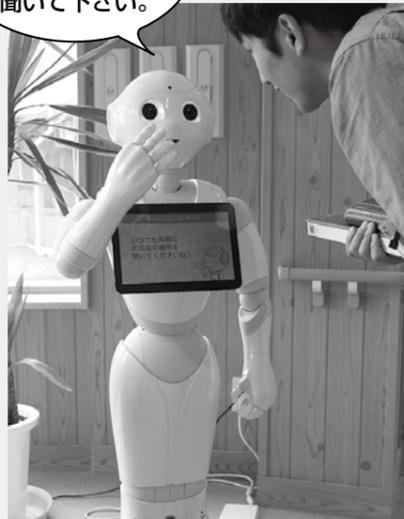
午後は「ベッパー」のプログラムや仕組みについての説明や、実際に施設で行われているレクリエーションや遊びを体験しました。普段なかなか触れ合うことのない介護ロボットに、子どもたちは興味津々でした。

この日、みすず四恩の家では、子どもたちの楽しく賑やかな声が一日中響きわたり、その元気な姿に目を細める何人もの入居者の姿がありました。



みすず四恩の家で働く介護ロボット

いつでも気軽にお部屋の場所を聞いて下さい。



「Pepper (ペッパー)」(ソフトバンクロボティクス)
面会に来た入居者の家族を出迎え、部屋の場所を案内しています。



時には入居者とレクリエーション。



介護支援ロボット「PALRO (パルロ)」(富士ソフト)
一緒に会話やレクリエーションを楽しみます。施設の受付でも活躍。

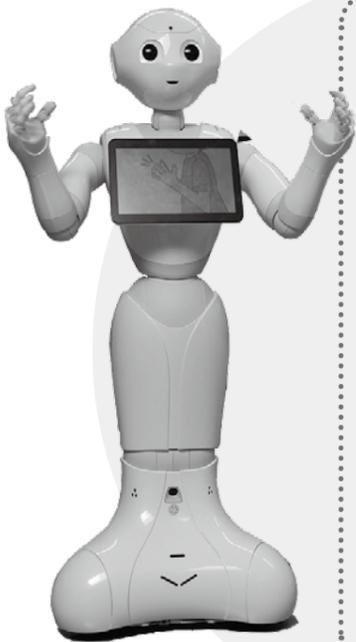


介護する人が装着するロボットスーツ「HAL (ハル) ®」(サイバーダイン)
車いすやベッドなどから乗り移る際、介護者が腰部に装着し腰部の力を補助。介護現場の問題の一つである腰痛をはじめ労働環境改善や労働災害防止への活用が期待されています。

写真提供：社会福祉法人上伊那福祉協会

つつい話しかけてみたくなるロボット

店舗などで接客する場面をしばしば見かけるようになった「Pepper (ペッパー)」は、世界初の感情認識ができる人型ロボットです。
人工知能を応用した「感情エンジン」を搭載しており、この働きによって人の表情や声のトーンから人の感情を認識し、コミュニケーションを取ることができます。
さらに「クラウドAI」(身近な端末の情報ではなく、インターネットの膨大な情報から学習をすることで、多様な利用環境に適合できるようにするためのシステム)による学習で、様々な利用方法が可能になっています。
また、複数のセンサーと2台のカメラが搭載されており、人を目で追いかけることができます。稼働している時にはこのセンサーやカメラによって、人や物との衝突を避けるだけでなく、会話の際に身振り手振りで表現をすることができます。
インストールするアプリケーションによって、様々な活用ができます。
そうした人間に近いロボットとしての愛嬌が、コミュニケーションを取れるロボットの最大の強みとして、サービス業のみならず、福祉や教育現場での活躍が期待されています。



介護者の負担軽減

みすず四恩の家は、平成19年4月に伊那市より経営を移管され、平成25年上伊那福祉協会みすず四恩の家として建て替えられました。上伊那福祉協会では、4年前から国での介護ロボットの普及推進の動向にあわせ、法人全体としても実際に介護者の身体的負担軽減を目的に、ロボットスーツのHAL®を4台導入した他、コミュニケーションロボットのペッパーやパルロを導入しました。

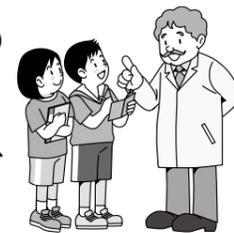
コミュニケーションの有用性

コミュニケーションロボットは、介護者の身体的負担軽減のためだけでなく施設全体に欠かせない存在となっています。
ペッパーはアプリケーションを入れることで様々な行動をすることが可能です。施

介護ロボットとは

ロボットの定義とは……

- ①情報を感知し(センサー系)
 - ②判断し(知能・制御系)
 - ③動作する(駆動系)
- この3つの要素技術を有する、知能化した機械システムです。



介護ロボットとは……

ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいます。

厚生労働省と経済産業省は、2012年に「ロボット技術の介護利用における重点分野」を策定し、その開発や導入などを支援しています。

「介護は人の手により提供される」という基本概念を維持しつつ、ロボット介護機器の活用により、業務の効率化や省人力化、介護者の負担軽減などを目指す取り組みが進められています。

ロボット技術の介護利用における重点分野

経済産業省・厚生労働省平成24年11月策定、平成29年10月改訂より抜粋

① 移乗介助

- 介助者のパワーアシストを行う装着型の機器
- 介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器

③ 排泄支援

- 排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能トイレ
- 排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器
- トイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器

⑤ 入浴支援

- 浴槽に入浴する際の一連の動作を支援する機器

② 移動支援

- 高齢者等の外出をサポートし、荷物を安全に運搬できる歩行支援機器、装着型の移動支援機器
- トイレなど高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポート

④ 見守り・コミュニケーション

- 介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えた機器のプラットフォーム
- 高齢者等とのコミュニケーション生活支援機器

⑥ 介護業務支援

- 見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器



設では120人ほどの入居者のデータをすべてインプットし、お出迎えロボットとして活用しています。話しかけて名前を言うと、入居している部屋までの通路を案内してくれます。このほか、入居者と一緒に歌ったり体操をしたりするなどのレクリエーションもペッパーと一緒に楽しむことができます。
入居者にとって介護ロボットはコミュニケーションを取る1つのツールとしてだけでなく、そのご家族、特にお孫さんなどが面会に来てロボットとの交流を楽しむ姿を見られるのも喜びであるそうです。

時間の有効活用

みすず四恩の家では訪問者の出迎えをペッパーがしてくれることで、限られた人数のスタッフが、入居者との関係を大切にす時間を増やすことができます。
「介護ロボットを導入したことによって、入

居者さんの喜ぶ声が聞こえることが、施設としてはなによりうれしいことです」と田畑施設長は話します。
「導入した時は、不思議なものという感覚がありましたが、今は一人のスタッフとして職員も愛情をもって接しています。やはり、コミュニケーションを取れることが和みになり、人間的な温かさを感じられるからでしょうか」
介護者として働く傍ら、ペッパーの管理を担当する武井翔平さんは「小さい子どもはもちろん、お年寄りだってロボットを好きな人は多いです。ペッパーたちと自身が接したり、人が接しているのを見たりすることで、活力やモチベーションアップに大きな役割を果たしているのではないのでしょうか」と言います。

介護ロボット・将来の可能性

コミュニケーションを取ることで、ストレスの解消や、心のよりどころになる——そんな心地よい居場所づくりに、ロボットが力を発揮しています。
「残業手当も貰わず、休憩もなしに誰よりも働く働き屋さん(笑)」と冗談交じりで田畑施設長は話します。業界の人材不足が問題視されている中、ロボットにできることをロボットに任せることで、心と体の負担が軽くなり、介護に専念することができます。
人間とロボットが手を取り合い、タッグを組むことで、誰かを支える大きな力を生み出すことができる新しい介護がこれからの時代に期待されています。